

II 委託事業結果概要

<平成21年度>

- 1 女性のためのライフプランニング講座～自分の人生をデザインしてみよう
- 2 女性のライフプランニング支援プログラム開発研究
- 3 女性のライフプランニングの学びとコミュニティカフェを拠点とした交流の場づくり『ポーラースタープロジェクト』
- 4 女性のライフプランニング支援事業等を実施する、男女共同参画センター等地域の男女共同参画推進の拠点施設における総合的事業評価システムの開発、普及事業
- 5 女性のための「将来設計」プロジェクト
- 6 希望のある子育て期をすごすための女性のライフプランニング
- 7 仕事・子育て・介護を家族と共に考える「ライフプランニング手帳」の作成と活用

1. 「女性のためのライフプランニング講座

～自分の人生をデザインしてみよう～

あおもり女性のライフプランニング支援連絡協議会（青森県）

1. 事業趣旨

20代～30代前半の女性が、自らの人生における様々な「ライフイベント」を見据えたうえで、長期的な視点に立って人生設計を行う力を身につけ、自己のキャリアを主体的に設計し、切り開いていくことができる女性の人材育成を目指す。なかでも、若い女性が多様な選択肢の存在や自己の可能性やライフステージ別の自己イメージをもつことで、「自分の生き方を主体的に選べる（自己実現）青森県の若い女性」を増やすことにつなげる。

2. 事業内容

青森県の女性のライフプランニングの現状を把握した上で、その課題解決を図るべく事業を展開した。

(1) 青森県における現状分析と課題解決策

青森県の若い女性たちが置かれている職場の現状や働くことへの意識を明らかにし、課題と課題解決のためのロジックモデルを作成。それに基づき研修プログラムを作成し講座を組み立てた。（※図1 ロジックモデル 参照）

(2) 「女性のためのライフプランニング講座」4回講座の開催

対象：青森県内のおおよそ20代～30代前半の女性（未婚・既婚不問）

目的：青森の若い女性が長期的な視野に立って、結婚・妊娠・出産といったライフイベントを視野に入れ、自らの人生設計を行う「ライフプランニング」を支援する。

内容：講演、講義、ワークショップ、討議等（※表1 講座概要 参照）

(3) 広報活動

- ・ ターゲット別の広報活動（チラシ（企業向け、個人向け））
- ・ マスコミの活用と草の根広報

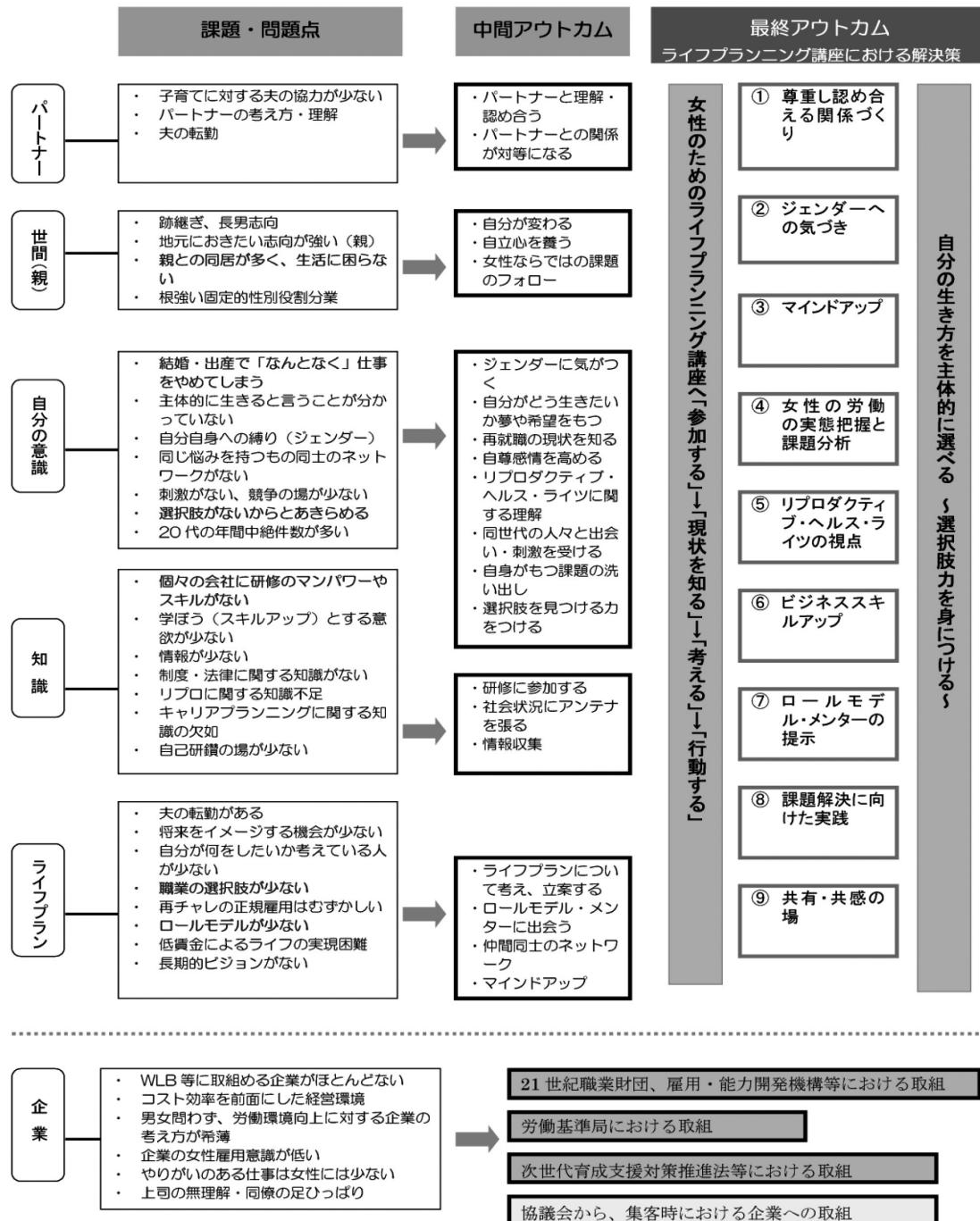
(4) ミニテキストの作成

趣旨：講座内容をミニテキストとしてまとめることで、広く多くの方に活用していただく機会とする。また、企業や大学、全国の女性関連施設等への配布により、研修等における活用及び「ライフプランニング」の必要性と周知につなげる。

(5) 今後の事業の定着に向けた取組

- ・「ミニテキスト」の活用
- ・「社会資源」としての青森県男女共同参画センターの活用
- ・「ライフプランニング相談室」の開設に向けての依頼

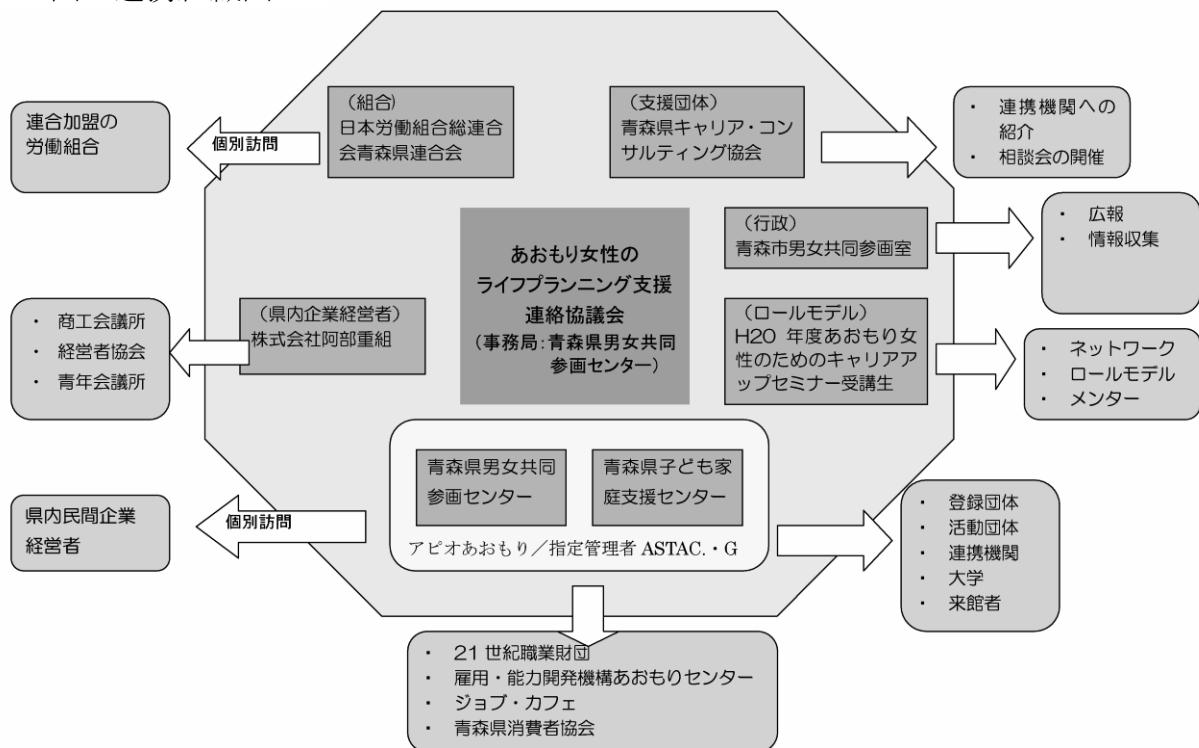
<図1 ロジックモデル>



5. 連携体制

「あおもり女性のライフプランニング支援連絡協議会」を組織し、県内関係団体と連携し実施した。

<図2 連携組織図>



6. 事業成果

青森という地域の実情を把握し、実効性のある事業が展開できた。ワークショップにおいて「青森で働く若い女性のライフプランニングに関するロジックモデル」を組み立て、課題解決を図るための「研修プログラム」に反映したうえで、広報活動、講座、ミニテキストの作成と活用、事業の継続に向け取り組んだことが受講生の満足度の高さにつながった。また、草の根的な広報活動や事業を通して関わった多くの方が、青森ではまだなじみの薄い「ライフプランニング」や「女性が主体的に生きることの必要性」について知っていくことのきっかけとなった。

（1）青森県の女性労働等の現状に対する課題解決に向けて

- ・ 有効求人倍率が全国でおおよそ最下位
- ・ やりがいや将来性を感じる仕事につけない（仕事がない）
- ・ 女性が転職でステップアップすることがむずかしい
- ・ ロールモデルが少ない
- ・若い女性に対する研修が皆無

- ・ リプロダクティブ・ヘルス・ライツについて学ぶ機会がない

上記の課題について、解決につながる研修プログラムを組み、受講生に的確な情報と知識及びヒューマンスキルの提供により受講生らの現状理解とマインドアップにつながった。

(2) 参加人数

企業の戸別訪問の結果、20人募集に対し22人が応募し、予定数を上回る受講者となった。年代別にみると、20代が10人、30代が11人、40代が1名となった。全講座出席の受講生は34.6%と3人に一人の割合であった。4回講座の場合、仕事上のやりくりなど厳しいものがある。また、多様な労働形態に対応できるように、開催曜日を分散したが、企業研修として参加した受講生が多くなったこともあり、日曜日開催の講座は参加者が幾分少なかった。

(3) 講座内容

- ・ 講座の組み立ては事前に青森県の現状等を分析し、ワークショップで課題を明らかにしたうえでプログラムを検討したことが満足度100%につながった。
- ・ ふりかえりシートを見ると、各講座の研修目的が的確に伝わっていることがわかった。
- ・ 講師の方にも、本講座の研修プログラムと目的を明確に示し、打合せをしたことで、研修目的と講座内容の「食い違い」はほとんどなかつた。
- ・ リプロダクティブ・ヘルス・ライツの視点について学び、性の自己決定権に関する知識を身につける講座は受講生にとって初めての学びであり、目からウロコ状態であった。自分の人生を通して、心とからだを健康な状態に保っていくために有効な「ピル」を安全に使用することが「クオリティオブライフ」につながることを知り、これについて学ぶことは、女性の長期的なライフプランニングを考えるうえで有効であった。

(4) 特別セミナー

- ・ 「パートナーとのいい関係づくり」を目的に実施したが、248人と予想以上の参加者があり大盛況であった。ライフプランニングについての認識も深まったといえる。
- ・ 「ジャガー横田&木下博勝」という講師、そしてホテルでの「トークショー」という形式で実施したこと、普段このような講座には参加しない人たちにも来ていただく事ができた。

- ・ 年代、性別も多様であったが、「ライフプランニングについての話は参考になったか」という質問に対し 97.5%が参考になったと回答している。また、「今後の仕事・活動・生き方の役に立つか」という質問に対しても 93.2%が「役に立つ」と回答している。全体の満足度も 98%であった。
- ・ 「夫婦間の互いの思いやりを強く感じたトークショーでした（企画の趣旨がよくわかりました）」という感想が寄せられ、トークショーの内容が特別セミナーの趣旨と合致していたことがわかる。
- ・ 「あおもり女性のライフプランニング講座」の紹介 DVD を制作し上映したことが、ライフプランニングの予備知識となり、トークショーへの理解が深まるきっかけにもなった。

7. 事前評価に対する達成度合いとその根拠

(1) ふりかえりシート

ふりかえりシートの記入により、学んだことの確認と、自己を振り返るきっかけとなった。

(2) 受講生ネットワークの形成

今回の講座の中での異業種間交流が非常に刺激的であった。職種が違うことで得意とする分野が違うこともあり、コアスキルの確認ができモチベーションアップにつながった。セミナーは終わっても「この出会いを大切にしたい」という感想もたくさん聞かれ、今後は青森県男女共同参画センターがこの出会いをバックアップしていきたい。

(3) 研修に参加するための「有休」取得者

参加者 22 人中、6 人（有休あるいは研修参加のため出勤日や勤務時間の変更も含む）

(4) ミニテキストの作成（「女性のためのライフプランニング～情報マニュアル～」）

「女性のためのライフプランニング～情報マニュアル～」の作成及び配布をした。女性関連施設からは、「自館でも取り組みたいので参考にするため、もう少し冊数をいただけないか」という問合せなどもあり、効果が現れつつある。また、労働組合の平成 22 年度の女性部研修に活用予定である。

(5) 相談体制の構築

協議会委員としてご協力いただいた青森県キャリア・コンサルティング協会が、アピオあおもりで実施している「キャリア相談」の内容に「ライフプランニングの支援」を盛込むことを検討中である。

※青森には働く人のキャリアプランや悩み等の相談を受ける機関がない。

8. 今後の課題

(1) 20～30代の働く女性対象講座の課題

今回の対象年代の女性の特徴として、「再チャレンジ講座」や「管理職セミナー」の受講生と違い、講座時における反応が低く、仲間づくり等に消極的であった。この理由として、一つ目には今回の受講生は現在常勤で働いている人が多く、さしあたり経済的な問題や雇用等に対する不安をあまり抱えていない、二つ目には地元にいることもあり、あえて仲間や友人を見つける必要がない、三つ目に管理職セミナーの受講生と違い名刺交換の経験もないうえに、今後の仕事（営業）等に結びつけるという発想がない、ことが考えられる。

【上記特徴を踏まえた課題と改善に向けた方策】

- ア. さしあたり課題をあまり抱えていない当事者に、いかに情報を届けキャッチしてもらうか。
- イ. 特別セミナーを含め、14講座実施したからこそ効果があったと考えられるが、企業研修として4日間（10時から16時前後まで）の研修に参加させることは難しい。（全講座出席者は34.6%）。募集時において企業にいかにライフプランニング支援の重要性を理解していただくか。また、受講生に対しては、1回目の講座においていかに自己の課題としてとらえてもらい、講座の重要性を理解していただくかが課題といえる。
- ウ. 参加者同士の関係づくりを促進する場の作り方。受講生が自己開示する時間を意図的に持ち、共感・共有の場を毎回5分程度でも提供することが必要である。
- エ. 女性が置かれている現状や課題等に関する情報や知識を得て、長期的視野に立って今自分がどのようなテクニカルスキルやヒューマンスキルを身につけなければならないかを考える講座を、バランスよく盛込む必要があった。

(2) 事業の継続

事業を継続実施するための予算をいかに捻出し、少ない予算で事業が実施できるかが課題。そのためには、地元講師の発掘と育成、及び助成金をいかに獲得し、他の関係機関といかに連携し、事業の継続につなげるかが必要。

(3) セミナー終了後の支援

自主グループの形成とその支援をいかに継続的に実施することができるかが課題。せっかく盛り上がった受講生の気運を継続させるためにも、事務局である青森県男女共同参画センター事業を活用し、受講生との関係が途切れることなく継続するようきめ細かい支援が必要。

また、そのためには講座の中で、受講生同士の共有・共感の場をもっと

《連絡先》

あおもり女性のライフプランニング支援連絡協議会
事務局 青森県男女共同参画センター
(<http://www.apio.pref.aomori.jp>)
住 所：〒030-0822 青森市中央3丁目17-1 アピオあおもり
電 話：017-732-1085 FAX：017-732-1073
E-mail：danjo@apio.pref.aomori.jp

2. 「女性のライフプランニング支援プログラム開発研究」

公益財団法人日本女性学習財団（東京都）

1. 事業趣旨

女性のライフプランニング支援を推進するためには、各機関の連携強化とともに、支援する側の力量形成が求められる。本財団では、女性の生き方にかかる様々な学習プログラムの開発及び学習資料の作成、セミナーの開催等に取り組み、ライフステージごとの課題分析と課題解決への力をつける学習支援に力を注いできた（例えば、高齢期を視野にいれたライフプランニングを考えるデータブックの作成、ミドル期対象の再就職支援講座や育児期対象のワーク・ライフ・バランスをめざすセミナーの開催等）。以上のような事業の蓄積を踏まえ、ライフプランニングのための学習支援の充実を図るプログラム開発研究を行う。実施にあたっては、キャリア支援・チャレンジ支援事業に実績のある十文字学園女子大学・埼玉県・港区との連携体制で取り組む。

対象・テーマについては、女性のライフイベントを長期的に展望した中で設定し、今日的課題（自分に自信が持てず壁にぶつかっている継続就業層あるいは非正規など不安定雇用層が抱える課題・ニーズ）や若年層のキャリア形成への意識啓発などを視野に入れたプログラム開発をめざし、女性の多様なチャレンジに対応する学習支援のあり方を探求する。

また、支援プログラムの開発にあたっては、リソースが揃っていない地域などさまざまな実施環境においても対応できる応用性のあるプログラムの提案を配慮し、ライフプランニング支援の中核となる女性関連機関・施設等の事業推進に寄与できるものをめざす。さらに本事業後は、関係機関・団体との協働によって、各地で支援プログラムが展開されるよう図るとともに、女性たちが将来展望を具体化し、一步踏み出す手がかりとなる資料作成にもつなげていく。

2. 事業内容

女性のライフプランニング支援プログラム開発に向けて、3つの対象〔A：育児期の女性、B：非正規雇用など不安定な働き方をしている女性、C：若年女性（大学生）〕を設定し、実験プログラムを実施する。実施体制は、連絡協議会及びプログラム開発研究委員会を設置し、協議会・委員会の連携によって実験プログラムの企画・運営・分析を行う。

(1) 実験プログラム 4カ所 *プログラム内容については資料1参照

A: 港区立子ども家庭支援センター（4回連続セミナー）

B: 埼玉県男女共同参画推進センター（4回連続セミナー）

C-1: 聖心女子大学、C-2: 埼玉県男女共同参画推進センター（単発 WS）

| | | | | |
|---|-----------------------------|--|---|--------------------------------|
| | 12:30 | フの扉を開く | 分の状態をつかみ、自分らしい生き方・働き方を考える。 | |
| 3 | 10/17(土) 10:00～ 12:30 | 〈キャリアモデル体験談とグループワーク〉 一人だけでがんばらないー 出会い・つながりを力にする | 3人のキャリアモデルの体験談から、仕切り直し・巻き返しへのヒントを得る。 | 亀田温子 萱原しのぶ 中邨登美枝 若尾明子 |
| 4 | 10/24(土) 10:00～ 12:30 | 〈講義とグループワーク〉 プランニングで今日から踏み出す！ | 女性の就労の現状と課題を認識し、自分の置かれた状況を客観的に把握する。 セミナーで学習してきたことを踏まえて、これから目標設定と実効性のあるプランづくりに取り組む。 | 福沢恵子 |

| C-1 プログラム 「女子大生のためのキャリアしゃべり場」 | | |
|--|---|---------------|
| 12/1(火) 17:00～19:30 聖心女子大学 | | |
| プログラム | 主な内容 | 講師等 |
| 開会 オリエンテーション 第Ⅰ部 簡単な自己紹介とアイ スブレイク | 女性が開発した商品名をつけたグループでグループ分けをし、セミナーの導入とする。 色紙を用いた自己紹介を行い、出会いの緊張感を和らげる。 | 亀田温子 森山貴代 |
| 第Ⅱ部 キャリアモデルからの 話題提供とグループワ ーク (1)話題提供者からの話を聴 く (2)グループ内で意見交換 (3)模造紙にまとめて発表 まとめ | 話題提供：継続就業する中で働く女性がどのようにキャリアを積んできたか、障壁を乗り越えてきたか、また企業における女性の現状について話を聞く。 グループワーク：感想・気づきを共有する。 | 森山貴代 隈元りえ子 |

| C-2 プログラム 「女子学生のためのキャリアアドバイス場」 | | |
|--|--|----------------------|
| 12/19(土) 13:30～16:30 埼玉県男女共同参画推進センター | | |
| プログラム | 主な内容 | 講師等 |
| 開会 オリエンテーション &アイスブレイク 第Ⅰ部 グループディスカッションとワーク | 就職への不安の共有&強みや可能性の相互理解をグループで行う。 話し合いのテーマ：就活時期をたくましく切り抜けていくために」～不安に対して自分の強みを活かしてどのように対処していくか？ | 森山貴代 |
| 第Ⅱ部 ロールモデル体験談 (1)体験談を聞く (2)Q&Aタイム (3)みんなでシェアするまとめ ☆オプションプログラム：館内ツアーア | 2人のロールモデルの体験談から、ライフプランニングのヒントを得る。 ロールモデルのスピーチの後、2グループに分かれて、モデルを囲んでのQ&Aを行う。 | 大槻奈巳 白鳥淳子 藤島愛子 |

(2) 実施体制

- ①連絡協議会(4機関) 開催数4回
- ②プログラム開発研究委員会(委員7名) 開催数4回
- ③その他
 - ・プログラム別作業部会(WG)
 - (2) の委員会メンバーによるWG：開催数4回 [A Bプログラムについて合同2回、Cプログラムについて2回]
 - A：福沢・安田・隈元
 - B：福沢・安田・岡村
 - C：亀田・大槻・森山
 - ・実験プログラム打合せ会：開催数6回 [A(3)+B(2)+C(1)]
 - WGメンバー・講師・キャリアモデル・連絡協議会関係者
 - ・ふり返り検討会 開催数10回 [A(4)+B(4)+C(2)]
 - 各プログラム実施後（連続セミナーについては、回ごと）に開催
 - 講師・キャリアモデル・委員・連絡協議会関係者

(2) プログラム開発研究委員会(委員 7名)

| | |
|-------|----------------------------------|
| 大槻 奈巳 | 聖心女子大学文学部准教授 |
| 岡村 清子 | 東京女子大学現代教養学部教授 |
| 亀田 温子 | 十文字学園女子大学社会情報学部教授 |
| 隈元りえ子 | 資生堂本社宣伝制作部制作プロデュース 1 G |
| 福沢 恵子 | ジャーナリスト・日本女子大学客員教授 |
| 森山 貴代 | キャリアカウンセラー |
| 安田 順 | 青山学院大学ヒューマン・イノベーションセンター 客員研究員 |

(50 音順)

6. 事業成果

(1) 成果・効果及びその普及内容

①学習内容・方法

実験プログラムは3つの対象（A：育児期の女性、B：非正規雇用など不安定な働き方をしている女性、C：若年女性（大学生））の課題を抽出し、それに対応したプログラムを構築・提供することで、受講生のライフプランニングへの関心及び重要性の認識度が高まった。また各自の課題や目標の明確化をはかり、漠然としていた将来イメージをより具体的なものにするために、参加体験型のグループワークを中心とした学習方法を用いた。その結果、3プログラムとも受講生のほとんどから「将来へ向けて前向きになった」（86.7%～100%）との回答が得られた。

②学習の場づくり

グループワークを通して、グループの関係の中から個々の課題を整理し解決へのヒントを獲得していく学習方法には、受講生同士の関係づくりが重要となる。そのためセミナー実施時間外にも交流の場を配慮するなど、関係づくりの促進を図った。また、受講生が安心して学ぶことのできる学習環境づくりに向けて、保育の充実（Aプログラムの保育受入21名 0歳児～5歳児、Bプログラムの保育受入 5名 2歳児～5歳児）や欠席者のフォローに努めた。そのことにより、セミナー（連続セミナー）終了後に自主グループも生まれ、現在も交流が続いているなど、支えあう関係づくりをねらいとした場づくりの成果があった。

③情報提供

セミナー受講目的の中で「情報を得たい」というニーズが一番高かった。そのため、セミナー中、ライフプランニングに関する幅広い情報（生涯学習関連、キャリア支援関連、就労関係、子育て支援関連など）を提供した。

その結果、関連機関の事業の利用（講座の受講や相談事業の利用など）につながり、受講生の学習を促進することができた。

③連携

連絡協議会及びプログラム開発研究委員会メンバーの関係機関・団体の連携によって、実験プログラムの内容の充実を図ることができた。また若年層の利用が少ない女性関連施設でのセミナーにおいては、集客面で支えとなった。特に大学生を対象としたCプログラムでは、初めて施設を利用したという学生が9割以上を占め、新たな利用層の開拓となった。一方Bプログラムは、程度の差はあるもののグループ学習だけでは対応しきれない精神的な悩みを抱えている人も少なからずいたことから、個別相談に応じるチャレンジ相談部門（埼玉県男女共同参画推進センター）との連携によって、受講生の個々のニーズに対応できた。

7. 事前評価に対する達成度合いとその根拠

| | 項目 | 目標値 | 結果 | 達成度合 | 根拠等 |
|---|-------------------|--|---|--|------------|
| 1 | 事業実施数 講座数 | 実験プログラム4 (連続セミナー2／ワークショッピング2) | 連続セミナー(各4回) 2カ所 単発ワークショッピング 2カ所 | 想定どおりに達成できた | |
| 2 | 参加者数 | 連続セミナー(各30名) 単発ワークショッピング(各30名) | Aプログラム：募集25名 参加数24名 Bプログラム：募集30名 参加数33名 C-1プログラム：募集30名 参加数32名 C-2プログラム：募集30名 参加数28名 出席状況(連続セミナー4回平均) Aプログラム：81.3%、Bプログラム：76.5% | 概ね想定どおり達成できた A：ほぼ達成 B：達成 C-1：達成 C-2：ほぼ達成 | |
| 3 | 連携対象数 | 連絡協議会メンバー(4) 及びメンバーメンバー(1～2)、プログラム開発研究委員会メンバー、所属の大学・企業等(5機関程度) | | 想定どおりに達成できた | |
| 4 | 就業活動による意識の向上 | セミナー参加前と比較して「就業・地域活動に関する意識が向上した」と感じる参加者の割合 ⇒7割以上 | Aプログラム:①86.7 ②86.7 Bプログラム:①95.7 ②95.7 C-1プログラム:①93.5 ②87.1 C-2プログラム:①96.2 ②100 [注参照] | 想定どおりに達成できた | アンケートデータ参照 |
| 5 | ライフプランニングによる意識の向上 | セミナー参加前と比較して「ライフプランニングに関する意識が向上した」と感じる参加者の割合 ⇒7割以上 | Aプログラム:④86.7 ⑤100 ⑧80 Bプログラム:④95.7 ⑤82.6 ⑧69.6 C-1プログラム:④83.9 ⑤71 ⑧58.1 C-2プログラム:④92.3 ⑤84.6 ⑧69.2 [注参照] | 概ね想定どおり達成できた A：達成 B：ほぼ達成 C-1：ほぼ達成 C-2：ほぼ達成 | アンケートデータ参照 |
| 6 | マインドアツプ・一步踏み | 女性のライフプランニングを有効にするための | Aプログラム:③86.7 ⑥80 ⑦73.3 | 概ね想定どおり達成できた | アンケート |

| | | | | | |
|---|---------------------------------|---|---|------------------------------------|---|
| | 出せるプラン づくりをめざす の構築 の構築 | 学習内容・方法の質的向上を図る ○マインドアップ ○参加体験型学習を通して実践に踏み出せるプランづくり | Bプログラム:③95.7 ⑥78.3 ⑦78.3 C-1プログラム:③100 ⑥71 ⑦74.2 C-2プログラム:③96.2 ⑥76.9 ⑦61.5 | A:達成 B:達成 C-1:達成 C-2:ほぼ達成 | データ参照 |
| 7 | その他① | 女性間連施設の課題解決 ○若年層利用者の開拓 ○施設資源の活用 | 若年層(20-30代)の施設利用 初めて⇒Aプログラム：42% ⇒Bプログラム：52% ⇒C-2プログラム：93% | 想定どおりに達成でき た | アンケート データ参照 |
| 8 | その他② | 学習内容・方法のプロセス (資料2参照) | 左記のプロセスに沿って学習支援に努め、手 ごたえを得た。 各学習アブリューチンは、グループワークを基本とし て、参加者同士の関係の構築を外への支援機関・ 整理し、また、情報などを積極的にオーバーラップして 整理する。さらに、学習環境に応じて講座後のフィード バックやアドバイスなどを含める。 いきなり直接的なアドバイスをせず、まず、問題を明確 にすることで、自分自身で問題を理解する力が身につく。 また、アドバイスをすることで、自分自身の問題を明確 に理解する力が身につく。 | 想定どおりに達成でき た | 上記項目 4, 5, 6 の達成状況 及びアンケ ート結果 |

| | | |
|---|--|---|
| 8 | | ミナー後の支援」の2つの観点から整理したが、当事者へのタイムリーかつきめ細かな支援をどのようにしていくかが、今後のライフプランニング支援の充実のキーポイントとなる。そのためにはライフプランニング支援に携わる人の力量形成に向けて、上記（その他①）で作成した資料を活用した研修が求められる。 |
|---|--|---|

○本事業の定着に向けた取組

事業の定着への取組は次年度に計画している。上記で標記したことを踏まえ、まず女性関連施設担当者への研修資料の作成に取り組み、その資料を活用した担当者向け研修の実施にとりかかりたい。また、それと並行して、協働事業によるキャリア支援事業を実施し、今回の成果を広く還元していきたい。

《連絡先》

公益財団法人日本女性学習財団 学習事業課

(<http://www.jawe2011.jp/>)

住 所：〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館5F

電 話：03-3434-7575 FAX：03-3434-8082

E-mail : jawe@nifty.com

3. 女性のライフプランニングの学びと

コミュニティカフェを拠点とした交流の場づくり

『ポーラースタープロジェクト』

特定非営利活動法人せたがや子育てネット（東京都）

1. 事業趣旨

ライフステージの変更による変化の影響を受けやすい女性の人生において、すべての女性が主体的に多様な選択肢を手にできるよう、ターニングポイントごとの学びと支えあうための場づくりをおこなう。本プロジェクトを通じ、人生の航海において方向性を見定める指針となるもの=「北極星」（ポーラースター）を見つけることをテーマとする。

2. 事業内容

学生を中心としたすべての女性を対象に、女性のライフステージごとの学びの場である連続講座を中心に、他の学生や社会人「メンター」と出会う交流の場づくりを行う。また、事業を通して得た学びを行動変容、具体的なアクションへつなげるため、学生企画・運営によるライフプランニング講座を開催し、そのための企画委員会を「実行委員会」として運用を行う。

また、ライフプランニング支援を総合的に推進するために協議委員会を設置し、既存の支援を活用しながらもできるように協議を行う。

（1）学びの場

連続講座は「職業選択期」、「キャリア構築期」、「育児期・再チャレンジ期」と3つのステージに設定し、以下のようなテーマ設定を行った。

| | |
|---------------------------|---|
| ライフステージ1 「職業選択期」 | 現在の自分を知り、働くという事の多様さへの理解を深め、現代女性の置かれた社会環境や子育てなどを考慮した働きやすい職場環境などを知る。 |
| ライフステージ2 「キャリア構築期」 | 仕事を通して何を得るか、仕事と家庭の両立とパートナーシップ、ワークライフバランスなど取り巻く環境、現代子育て環境への理解、女性の生涯にわたる健康について知る。 |
| ライフステージ3 「育児期・再チャレンジ期」 | 刻々と変化するライフステージの中で見通しを持つために長期的な視点や柔軟な考え方、地域と家庭の在り方、再チャレンジなどについて知る。 |

(2) 交流の場

連続講座ではかならず振り返りの時間を設定し、他の学生や社会人メンターと感想や気づきなどを振り返って共有、言語化することで自己の理解を深め、多様な考え方方に深く触れられるようになる。また、「カフェスタイル」というリラックスして自由に意見を言い合える空間づくりにつとめ、一人ひとりが自己の考えやアイデアを発信することを楽しみ、人と人がつながることができる場となるようコーディネートを行った。

(3) 社会人メンター

メンターの役割は、各ライフステージにおける「先輩」。多様なモデルであり、アドバイザーである。生きた体験を語ることで、学生時代に思い描く理想と、さまざまな現実を学生たちに伝える。社会人としての経験や有形無形のネットワークを提供し、学生たちの学びを支援する。「暖かく社会に迎え入れる存在」としての役割も担うが、学生や他のライフステージの人たちと交流する事で、メンター自身もエンパワメントされ、支えあい、循環する支援の仕組みの核となった。

3. 連絡協議会メンバー

協議会はNPO、企業、行政、大学、研究者などで構成。

個々のフィールドにおけるライフプランニング支援の取り組みに関する情報提供、意見交換、事業推進に対する助言、提案、支援、評価などを行う。

また、本事業の課題や成果を踏まえ、各々が実施している支援に対する、真のニーズの確認をする。個々のフィールドにおける既存の支援が分断されることなく、ライフステージの変更ごとに拾い合える、「セーフティネット」として機能するために必要な協議が目的である。

※ メンバーは以下の通り（敬称略）

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 渥美 由喜 | 株式会社東レ経営研究所ダイバーシティ＆ワークライフバランス研究部長 |
| 安藤 哲也 | 特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン代表理事 |
| 釘崎 清秀 | 株式会社パフ 代表取締役社長 |
| 田中 茂 | 世田谷区産業政策部長 |
| 萩原 建次郎 | 駒澤大学総合教育研究部教職課程部門准教授 |
| 堀越 弥栄子 | 東京都生活文化スポーツ局都民生活部男女平等参画室長 |
| 光畑 由佳 | モネット有限会社代表 |
| 山田 正人 | 経済産業省中小企業庁調査室長 |
| 松田 妙子 | 特定非営利活動法人せたがや子育てネット代表理事 |

（50音順）

4. 事業成果

成果・効果及びその普及内容

○プロジェクト参加者（学生）に対する成果

- 1) ライフプランニングにおける長期的な視点や柔軟な考え方を得る
- 2) ライフプランニングに関する具体的な情報やイメージを持つ
- 3) 多様な人生の選択を引き出し、受け止める「場」を得る
- 4) 当事者が必要としている支援に自ら気付き、受け手としてだけではなく発信も行う

○成果の確認方法

実行委員として参画した学生へ事業終了後アンケートを実施し、上記が得られたか確認するための質問を通して、成果の確認を行った。また、各項目についてのコメント欄や、自由記述項目も設け、内的世界の広がりや価値観の変化を具体的に確認した。

○実施団体としての成果・効果及びその普及内容

1) 女性のライフプランニング支援のためのプログラムづくり

ライフステージを3つにわけ、ライフィベントごとの課題に対応する講座を実施した。子育てNPOである当団体にとって、ライフステージ3（出産、育児期）が得意とするフィールドだったが、本事業を通し、ライフステージが連続していくような構成にすることが可能となり、講師とのつながり、意識の共有が行えた。「当事者」となった段階から支援の対象となるのではなく、当事者になる前からつながりを持つことは安易な決断を減らし、人生の選択肢を増やすために必要な事である。そういう意味で、全体像を共有し、他のステージとつながりを意識し、行き来できるようにプログラム作りを行えたのは大きな成果である。

成果を普及する為、「ライフステージを分けライフィベントごとの課題に特化した構成とする」「ライフステージを分断しない」「長期的なライフプランニング」「参加者の属性も限定せず多様な参加者を募る」といった工夫を、パッケージとして構築、提案できるような整備した。

2) 人材の交流、学び合い支え合う場づくりのノウハウ構築

ライフステージの変更をより自然な形で実感する為に、ロールモデルである「社会人メンター」とともに受講するというスタイルとした。プログラムの良さに加え、多様なステージにいる他者との関わりの中から、新しい価値観に出会う事は、発想の自由を引き出し、選択肢を増やすことに大きく寄与した。

座学+シェアリング、カフェスタイル、メンターという地域人材の活

用の仕組みづくりなどは、学び合い支え合う場づくりのための重要な要素なることが改めて確認できた。

3) 総合的なライフプランニング支援のための体制整備、連携機関との関係構築

関係期間と同じテーブルで情報やアイディアを交換し、「支援の在り方」という大きなテーマを共有できたことが、第一段階の成果である。ライフステージの変化に対応できるようなネットワークを作るためには、お互いの支援の現場や課題について共有することがまず大事である。それぞれの立場からの支援に照らし合わせ、総合的な支援のための連携の模索が行えた。継続して新しい形の支援や協働を今後も展開していきたい。

5. 事前評価に対する達成度合いとその根拠

参加者の声やアンケートなどを通しても、プログラムの質としては十分満足できる結果であったが、集客の課題からも見えるように、「参加に至らなかつた人たち」の存在を無視できない。

プログラムに魅力がなくて参加ができなかったのか、プログラムの構成や運用へのハードルが原因で参加ができなかったのか、別の課題なのかを検討し、改善に向けた見直しが必要である。

| 項目 | 改善点 |
|----------|---|
| プログラムの内容 | 参加者のアンケートからは、内容への満足度が非常に高いことがわかる。「内容は本当に満足」「今まで聞いたことなかった」「自分が知らなかつたことに気がつけた」「最初よくわからなかつたが一度来さえすれば良さが伝わる」といった意見も聞かれた。プログラム内容を見直すよりも、どのような発信をするか、どのような場やルートを活用して広報するか、など、プログラムで伝えたい内容をきちんとアウトプットすることが必要である。 |

| | |
|--------------|--|
| プログラムの構成 | <p>連続講座だからこそその利点はあるが、7月～12月にかけて全10回の講座に参加するというハードルの高さがあったことは否めない。実習や授業などで忙しい学生は参加機会が減ってしまい、フォローの体制も準備しきれなかった。回数をコンパクトにする、授業に配慮した日時を設定する、開催場所を複数設定するなど、さらなる工夫や改善が必要である。</p> <p>(連続講座の利点)</p> <p>参加者との関係性構築、リラックスして参加できる、選択制と違って基本的にすべての講座に参加する形式のため、「今の自分」に必要なテーマだけでなく、幅広いテーマで学ぶことが可能となり多様性や柔軟性が得られる 等。</p> <p>(長期間のプロジェクトの利点)</p> <p>短期的な成果や効果のためではなく、参加者が自己にじっくり向き合い、他者との交流を通して得られる内面の熟成を待つことができる。「経験の場」がデザインできる。</p> |
| 周知方法 (広報) | <p>広く告知するため、東京近郊の大学をリストアップし、広報を行った。広報用のツールも追加で作成し、より分かりやすく、具体的な内容に修正したり、ただチラシを送付したりするのではなく、一件一件電話をかけて事業の説明や案内への協力を依頼するなど、改善を重ねたが、直接的に成果(=集客)へつながりにくかった。</p> <p>プロジェクトメンバーは、概ね「すでに顔の見えている関係」からの参加や紹介であったという実績や、今後の展開に向けての意見にも「口コミ」への期待が大きいことから、じっくりと顔の見える関係づくりをしていくことが必要であると考える。大学や協力機関から信頼していただけ、「経験の場」として紹介していただくために、丁寧なコミュニケーション、現場へ足を運ぶ、言葉を重ねて説明していく、等に取り組んでいきたい。</p> |
| 協力体制 | <p>事業を通し、個々の支援の立場からの課題だけではなく、共通の大きなテーマに対する課題という視点を共有できた、お互いの支援の実態を知り合えたということが第一段階の成果。今後はさらに連携を強化し、小さくても具体的な協働を実践や、総合的な支援の実績をつくっていきたいと考えている。</p> |

6. 今後の課題

本事業の定着に向けた取組結果

本事業はまず、「支援の在り方」を検討・検証する場であった。

得られた成果や課題を展開する為に、以下のような提案をまとめた。

今後この提案を大学や関係機関に行い、地域を核とした総合的な支援の普及定着に努めたい。

女性のライフプランニング支援

多様なライフコース選択支援・
制度活用支援・キャリアモデルの提示・
ネットワーク化



『ポーラースタープロジェクト』を立ち上げませんか？

ポーラース
ター
出前講座

ライフステージごとの
学び&シェアリング

ポーラースター
『ワールド・カ
フェ』

主体性と創造性を
高める「語り場」

ポーラースター
コミュニティ

地域の人がつながる
自由でオープンな
コミュニティ

<<ポーラースタープロジェクト>> ご要望に合わせ内容をコーディネート

ポーラース
ター
出前講座
(カフェスタイル)

ライフステージごとの学び
&シェアリング

ポーラースター
『ワールド・カ
フェ』

主体性と創造性を
高める「語り場」

ポーラース
ター
コミュニティ

地域の人がつながる自由
でオープンなコミュニティ

外部
ネットワーク

<<PSPプログラム>> メニューごとに実施、既存支援システムに追加も可能！

各種ガイダンス
(入学・就職・キャ
リア)

ゼミ

研修会・講演会
(入学・就職・キャ
リア)

実習
インター
ン

職員向け
も…

支援セン
ター
(キャリアセン
ターコーディネー
ター・
メンター派遣)

就職フェア

学園祭

もちろん再チャレンジ支援を主としたアレンジも可能で
す！

7. 冊子等

参加者呼びかけのチラシ



《連絡先》

特定非営利活動法人せたがや子育てネット

(<http://www.setagaya-kosodate.net/>)

住 所：〒156-0051 東京都世田谷区宮坂2-21-1 Nハウス経堂

電 話：03-6796-3939

FAX：03-6796-3940

E-mail：info@setagaya-kosodate.net

4. 女性のライフプランニング支援事業等を実施する、男女共同参画センター等地域の男女共同参画推進の拠点施設における総合的事業評価システムの開発、普及事業

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会（神奈川県）

1. 事業趣旨

本事業は、男女共同参画センター等におけるライフプランニング支援事業等（とくに就業支援事業等）に関する望ましい事業評価システムを開発し、全国の男女共同参画センター等で実際に活用が可能な評価システムとして普及を図ろうというものである。最終的に、規模の大小、地域性、施設の設置主体のあり方等々、男女共同参画センター等の多様性をふまえて、どの施設においても一定の研修を受けければ、その施設の特徴を生かした総合的事業評価システムを自ら作成、運用することが可能なものとする。

2. 事業内容

男女共同参画センター等における、るべき事業評価の段階的構造を把握して、評価の第一歩である個別事業における自己評価システムの開発を行う。

(1) 先行文献、先行調査の把握

次のセンターにおける事業評価の内容、実施状況、課題などを調査した。

- ・静岡市女性会館
- ・広島市女性教育センター
- ・男女共同参画センター横浜
- ・国立女性教育会館

(2) 各種評価概念の整理、定義

評価にかかる次の概念を整理し、定義づけを行った。

- ・「自己評価」の定義
- ・評価の構造の整理～「評価項目」「評価指標」「評価基準」
- ・P D C Aとマネジメント・ツール

(3) ワークシートの作成

自己評価を実施するためのワークシートを作成した。

- ・事業ピラミッドワークシート
- ・評価項目・評価指標・評価基準検討ワークシート
- ・事業評価会議用ワークシート

(4) プリテストおよびその検証

① プリテストの位置づけ

男女共同参画センターのスタッフを対象とした自己評価システムを学び、実践していくための研修として実施

② 事前準備

プリテストに参加する施設の直近の事業報告書および事業計画書、施設概要等を前もって提出してもらい、実施事業の概要、事業検証のあり方、基本的数値の有無などを把握する。それもとに基本のプログラムをカスタマイズし、実施する。

③ プログラム

| 時 間 | 内 容 |
|-------------|---|
| 10：00～10：50 | 講義1 男女共同参画センターにおける事業評価の意義 ～事業（自己）評価がなぜ必要か～ |
| 10：50～11：00 | 休憩 |
| 11：00～11：30 | WS1 事業ピラミッドの把握 ～センター事業はどのような構造になっているのか～ |
| 11：30～12：30 | 講義2 事業（自己）評価の方法と留意点 ～なにをどう評価するのか、気をつけるべき点はなにか～ |
| 12：30～13：30 | 休憩 |
| 13：30～15：00 | WS2 評価項目の選択 ～なにを評価するのか～ |
| | WS3 評価指標の作成 ～どの視点で評価するのか～ |
| | WS4 評価基準の作成 ～どの尺度で評価するのか～ |
| 15：00～15：10 | 休憩 |
| 15：10～16：00 | WS5 事業評価会議の設定 ～いつ、誰が評価するのか、それをなにに使うのか～ |
| 16：00～16：30 | 振り返りとQ&A |

④ 内容

「講義1」

なぜいま評価が重視されるのか、男女共同参画センターにおける事業評価はどのように実施されているのか、いないのか、また事業の自己評価を行う目的はなにかなど、自己評価の基本を説明する。

「WS1」

実際の評価を行うにあたっては自施設の事業構造を把握する必要があるため、評価を考える前提として「事業ピラミッド」を作成する。

「講義2」

評価の構造を理解し、次のワークショップで行う評価手法を解説する。

「WS2, 3, 4, 5」

講義2の実践編として、実際に評価を行うために必要な、評価項目、評価指標、評価基準の3つの要素を決めていくためのワークシヨップを行い、最後に、事業評価会議のもちかたについてワークシヨップを行う。

3. 事業スケジュール

| 年 月 | 事 業 内 容 |
|-------------------|---|
| 2009年 6月18日（木） | 男女共同参画センター等に対する本事業への協力要請（於：国立女性教育会館「女性関連施設・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」） |
| 7月29日（木） | 第1回連絡協議会 ・男女共同参画センターでの事業評価の事例発表、意見交換 ・自己評価ワークシートによるワークショップの報告 等 |
| 9月2日（水） | 第2回連絡協議会 ・男女共同参画センターでの事業評価の事例発表、意見交換 ・自己評価のためのワークシートの設計 等 |
| 10月1日（木） | 第3回連絡協議会 ・自己評価システムの設計について 等 |
| 10月23日（金） | 全国女性会館協議会会員館に対する本事業への協力要請（於：全国女性会館協議会全国大会） |
| 12月7日（月） | 第1回プリテスト（於：こうち男女共同参画センター） |

成を行った。

- ・連絡協議会の成果である自己評価マニュアル、ワークシートを用いて、男女共同参画センター等におけるプリテストを3回行い、その実施内容について、連絡協議会で検証し、個別事業における自己評価マニュアル、ワークシートを完成させた。
- ・全国女性会館協議会の全国大会や民間団体主催の評価をテーマにしたシンポジウムなどを通じて、自己評価システムの普及を図った。
- ・プリテスト参加者へのアンケート結果からは、「自己評価の重要性がわかった」「評価の手法、ワークシートなどわかりやすい」など高い評価を得ることができた。また、全国の男女共同参画センター関係者からは自己評価のワークショップや研修に参加したいという関心の高さを感じた。

(2) ライフプランニングの支援にあたっての数値結果等

①事業実施回数・講座数

連絡協議会を6回、男女共同参画センター等におけるプリテストを3回

②参加者数

連絡協議会：のべ35人(7人×6回)

プリテスト：のべ27人(第1回8人、第2回12人、第3回7人)

③連携対象数(プリテスト実施の男女共同参画センター)：9センター

第1回プリテスト

- ・うち男女共同参画センター(財団法人うち男女共同参画づくり財団)

第2回プリテスト

(静岡県男女共同参画センターを会場に、県下7つの男女共同参画センターのすべてが参加して実施)

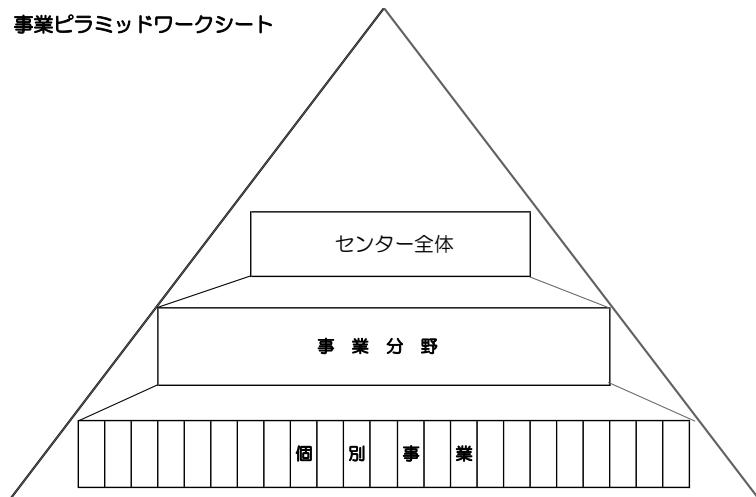
- ・静岡県男女共同参画センター(NPO法人静岡県男女共同参画センター交流会)
- ・富士市男女共同参画センター
- ・富士宮市男女共同参画センター
- ・静岡市女性会館(NPO法人男女共同参画フォーラムしづおか)
- ・藤枝市男女共同参画センター(藤枝市男女共同参画推進センター運営協議会)
- ・磐田市男女共同参画センター
- ・浜松市男女共同参画推進センター(NPO法人浜松市男女共同参画推進協会)

第3回プリテスト

- ・尼崎市立女性・勤労婦人センター(NPO法人男女共同参画ネット尼崎)

【ワークシート】

「事業ピラミッドワークシート」



「評価項目・評価指標・評価基準検討ワークシート」

評価項目・評価指標・評価基準検討ワークシート

| ○○○男女共同参画センター | | 評価指標、評価基準の検討案 | | |
|---------------|----|--|---|----|
| 評価項目 | 分野 | 評価指標(★=必須) | 評価基準(例) | 備考 |
| 1 情報事業 | | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ | A B C A B C A B C A B C A B C A B C A B C | |

「事業評価会議用ワークシート」

事業評価会議用ワークシート

| | | | | |
|--|-----------|---|---|---|
| 1 実施日： | 2 実施場所： | | | |
| 3 担当者名： | 4 会議参加者名： | | | |
| 5 対象事業分野 | 評価指標 | | | |
| 6 評価項目（実施した個別事業） | ① | ② | ③ | ④ |
| (1) | | | | |
| (2) | | | | |
| (3) | | | | |
| (4) | | | | |
| (5) | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 7 担当者コメント（成果と課題、次回実施する際の留意点など） | | | | |
| 8 事業における男女共同参画の視点（どこに男女共同参画の視点があるか、カルチャーセンター等の事業と異なる点はどこかなど） | | | | |
| 9 事業の有効性（社会経済状況の変化を踏まえて、この事業がまだ有効か、市民ニーズはあるか、センターが実施すべきかなど） | | | | |
| 10 次年度の計画とその理由（個々の事業の《継続》《改善して継続》《廃止》、および次年度の計画とその理由など） | | | | |

©横浜市男女共同参画推進協会

《連絡先》

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

(<http://www.women.city.yokohama.jp/>)

住 所：〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町 435-1

電 話：045-862-5141 FAX：045-862-3101

E-mail : yamasaki@women.city.yokohama.jp

5. 女性のための「将来設計」プロジェクト

特定非営利活動法人参画プラネット（愛知県）

1. 事業趣旨

近年、女性に対する支援の必要性に対して認識が高まり、多様な形態で支援が進んでいる。一方、現状の支援状況をみると、それぞれの支援が実施主体者ごとに分断されており、必要な支援が必要としている女性へと届かない社会構造がうかがえる。

こうした状況の下、女性たちの年齢、立場および家族の背景などをふまえ、それぞれの支援を統合化し、一人ひとりの女性へ届けることが重要な課題となっている。

この課題解決のためには、一人ひとりの状況をふまえた「将来設計」を統合的に学ぶ場と地域における様々な立場の人々及び自治体・企業・団体とをつなぎ「協力関係」を構築することが重要である。さらに、こうした取組が「持続可能」性をもって推進されることが必要である。

本事業では、愛知県内における、若年女性・就業継続女性・再チャレンジ女性を対象として、「将来設計」を統合的に学ぶ場、地域と安心して「協力関係」ができる仕組み、アクセスしやすく「持続可能」な体制づくりを実施した。

2. 事業内容

本事業では、運営主体となる連絡協議会を設置し、事務局をNPO法人参画プラネットが担当した。連絡協議会においては、女性のための「将来設計」に関するさまざまな地域資源（地域に存在している学習支援情報・就労支援情報・育児介護支援情報・男女共同参画センター情報等）を検討し、可視化した。

地域資源の検討後、連絡協議会が実施主体となり、①実験プログラムとして「将来設計」をテーマとした連続講座の実施、②連続講座の成果と課題から「協力関係」を形成するための提案書作成、③インターネットを活用した「持続可能」なポータルサイトの構築といった3つの企画を実施した。

連絡協議会は、これら3つの企画事業の核となり、それぞれの企画事業が円滑に連動するよう働きかけた。具体的には、それぞれの事業にアドバイスや提案を行い、連続講座では、広報活動などの協力を行った。また連絡協議会が連続講座実施後に講座の成果を分析し、提案書制作において有効的な情報源となった。

あわせて、ポータルサイト構築では、企画事業に参加した3つの枠組み（①若年女性、②就業継続女性、③再チャレンジ女性）の女性たちと地域・社会を継続的につなぐ役割を果たすウェブサイトを制作し、公開した。

今後は、連絡協議会で可視化された地域資源や、連続講座から得た「女性たちのニーズ」、作成した「提案書」の発信のみならず、さらにウェブサイトの機能と内容を充実させ、社会との双方向での情報交流を可能にし、女性のための「将来設計」が持続可能となるようなポータルサイトを開拓していく。

（1）連続講座（全7回）

連続講座では、「自分を知る」「社会とつながる」「暮らしを護る」という3つの方向から学ぶ将来設計塾を行った。

講座名：将来設計塾

対象：①若年女性、②就業継続女性、③再チャレンジ女性

内容：①若年女性、②就業継続女性、③再チャレンジ女性という3つの枠組みごとに3つのコースを設定し、開催した。講座では、一人ひとりの変化をとらえることができる内容でアンケートを実施した。また、将来設計塾の最終回は、連絡協議会メンバーとともに受講生が集合し、「将来設計」交流会（後述）を実施して、「協力関係」を形成するための機会を提供した。

詳しい講座内容は、次のとおりである。

（i）「自分を知る」（4回）

3つの枠組みとも共通内容とし、自分自身を確かにイメージしつつ自らの将来設計を実現に結びつけることができるプラス志向の自分表現講座を実施した。自分自身の内面をはじめ、企業で働く現状等、客観的に自分を知る機会となった。

具体的には、広告の手法を活用し、「現在の自分」と「3年後の自分」を表す新聞広告「自分広告」を制作した。なお、制作した「自分広告」を成果物として「将来設計」交流会において展示し、交流を深めるために活用（後述）した。

（ii）「社会とつながる」（1回）

3つの枠組みの特徴を活かして実施した。労働法や社会保障法などの視点をふまえ、働く上での基礎知識及び実践を学ぶ就労支援を目的とした講座を行った。なお、センターで企画運営される就労支援事業と連携しつつ推進した。

（iii）「暮らしを護る」（1回）

3つの枠組みにおける共通内容とし、日々の暮らしのなかで、自分の心と身体を護るという視点から、護身術を取り入れた講座を開催した。なお、センターで企画運営される関連事業と連携しつつ推進した。

(iv) 「将来設計」交流会（1回）

「自分を知る」で制作した「自分広告」を展示し、ロールモデルのトークを中心とした交流会を開催した。さらに、交流会で受講生がその紹介をしつつ連絡協議会メンバーとともに信頼がもてる「協力関係」づくりを推進することができた。

講師等：各分野における専門家及び実践者（自治体・企業・団体からの派遣、センターにおける講師経験者等）に依頼をした。

講座全体を見渡し講師と受講生をつなぐコーディネーターを設置した。コーディネーターは、各回の講座終了時に講座内容と感想をまとめ、ブログにて発信した。

託児：②就業継続女性及び③再チャレンジ女性の状況に対応した託児を設定し、育児中の女性の参加を促した。

（2）提案書制作

提案書：『女性のための「将来設計」プロジェクト』

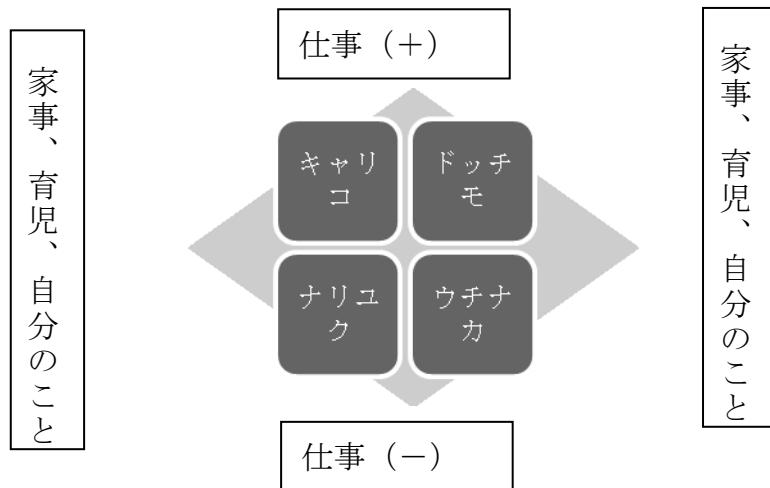
内容：連続講座「将来設計塾」におけるアンケート結果及び交流会で参加者から提供された社会資源情報からをもとに検証した。さらに、効果的な講座プログラム作成及び地域との「協力関係」づくりについて、連絡協議会のメンバーとともに検討し提案した。

（3）ポータルサイト構築

ポータルサイト名：「ウーマンみらい」

内容：日々の暮らしのなかでアクセスしやすいインターネットを活用して、女性のための地域資源情報（たとえば、学習支援情報・就労支援情報・育児介護支援情報・男女共同参画センターからの情報等）を発信し、それらの情報をもとに交流の交差点を構築し地域での「協力関係」を継続することを目的に、ポータルサイト「ウーマンみらい」を構築した。

4つのタイプの女性を登場させ、特徴を視覚化することでわかりやすくし、ポータルサイトへの動員を図った。



3. 連絡協議会メンバー

| 氏名 | 所属 | |
|--------|------------------------|------|
| 橋崎 早百合 | 名古屋市男女共同参画推進センター 所長 | 自治体 |
| 横井 暢彦 | 有限会社 ワツツビジョン 代表取締役 | 企業 |
| 鈴木 加代子 | 社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会 理事 | 地域活動 |
| 平林 美都子 | 愛知淑徳大学 女性学・ジェンダー研究所 所長 | 学校 |
| 天童 瞳子 | 名城大学 人間学部 教授 | 学校 |
| 菊地 夏野 | 名古屋市立大学 人文社会学部 准教授 | 学校 |
| 渋谷 典子 | NPO法人 参画プラネット 代表理事 | NPO |
| 伊藤 静香 | NPO法人 参画プラネット 常任理事 | NPO |

4. 事業成果

(1) 成果・効果及びその普及内容

《自分広告制作と発表》

- 講座については、講座コーディネーターが、講座内容および受講生の感想などを毎回「将来設計塾」ブログで発信した。ブログには、受講生からのコメントの投稿もあり、講師、受講生とコーディネーターの双方向の交流ができた。
- 講座終了後、受講生が自主的に結成した自主グループ「チーム アステージ」が誕生した。グループの活動は、自主的な学習会から発展し、メンバーの特技等を活かしてセミナー等の実施を予定している。

- ・大学の授業で将来設計塾の取組を発表予定している。
- ・連絡協議会において、プログラム実施の場の拡大可能性が期待されている。特に、中学校、高等学校、大学等の学生向けのキャリア教育の一環として有効的であると評価を受けている。

《ウェブサイトの開設》

- ・ウェブサイト名：ウーマンみらい
- ・コンテンツ作成に将来設計塾の自主グループメンバーが参画したため、より具体的なアイデアの提案が可能となった。
- ・ウェブサイト内に、女性たちの日常を伝えるブログを開設した。
- ・情報収集に連絡協議会メンバーが協力した。

《自分広告を活かした提案書づくり》

- ・交流会で展示発表した自分広告を活用し、実際に必要となる社会資源・地域資源等の情報やアイデアを参加者から提案してもらい活かした。

(2) ライフプランニングの支援にあたっての数値結果等

①事業実施回数・講座数

| 事業・講座名 | 回数 |
|--------------------------------|-----|
| 若年女性を対象とした「将来設計塾」(土曜午後コース) | 6回 |
| 就業継続女性を対象とした「将来設計塾」(金曜夜間コース) | 6回 |
| 再チャレンジ女性を対象とした「将来設計塾」(金曜午後コース) | 6回 |
| 「将来設計」交流会 (3つの枠組みの女性) | 1回 |
| 女性のための「将来設計」プロジェクト連絡協議会 | 4回 |
| 合計 | 23回 |

②参加者数

| 事業・講座名 | 参加者数 |
|----------------------------------|------|
| 若年女性を対象とした「将来設計塾」定員 15名 × 6回 | 48名 |
| 就業継続女性を対象とした「将来設計塾」定員 15名 × 6回 | 54名 |
| 再チャレンジ女性を対象とした「将来設計塾」定員 15名 × 6回 | 40名 |
| 「将来設計」交流会 (3つの枠組みの女性) | 26名 |
| 女性のための「将来設計」プロジェクト連絡協議会 5名 × 4回 | 32名 |
| 合計 | 200名 |

③連携対象数

| 連携対象 | 数 |
|-------------------------------|------|
| 女性のための「将来設計」プロジェクト連絡協議会における連携 | 6団体 |
| 「将来設計塾」および「将来設計」交流会における連携 | 3団体 |
| 提案書の作成における連携 | 2団体 |
| ポータルサイト「ウーマンみらい」における連携 | 3団体 |
| 合計 | 14団体 |

④女性の就業者数、地域活動への参画者数

| | |
|--|-----|
| 受講生による自主グループを結成し、自主講座を企画している。 | 7人 |
| ポータルサイト「ウーマンみらい」のコンテンツ作成に参画し、具体的なアイデアの提案やウェブサイト内に女性たちの日常を伝えるブログを開設するなど、地域資源となるポータル構築に参画した。 | 7人 |
| 合計 | 14人 |

⑤ライフプランニングに関する意識の向上の度合い

「何年先まで将来を描いていますか」という質問に対して、講座の初回では1年後が一番多く24.2%であったが、最終回では、40%の人が3年後と答え、次いで27%の人が10年後と答えており、講座を受講したことにより長期的なライフプランを描く人が増えたといえる。

⑥その他

- ・連続講座におけるコーディネーターの役割：連続講座「将来設計塾」においてコーディネーターを配置し、講師と受講生をつなぐ役割を果たすことにより、受講生同士のネットワークが構築され、自主グループが作られた。
- ・連続講座での成果物による可視化の役割：連続講座「将来設計塾」における「自分広告」は、現在の自分を3年後の自分を具体的に表す機会を提供した。その結果、初回における参加者の実現可能性を50%と考える者が33.3%と一番多く、次いで80%と考える者が12.1%で40%と考えるものが12.1%であったが、最終回には、50%と考えるものは31.8%と差はなく、60%、70%と考える者がそれぞれ13.6%に増えている。しかしながら、最終回には80%と答えた者はなく、逆に30%と考えるものが9%から22.7%に増加しているが、これは可視化によって、より現実的に考えるようになっ

なったためだと推測される。

- ・インターネット検索サイトのグーグルおよびヤフーで「ウーマンみらい」と検索した場合に上位に「ウーマンみらい」のウェブサイトが表示された。
- ・事務局を担当するNPO法人参画プラネットは、名古屋市男女平等参画推進センター（以下、センター）の指定管理者を担当していることから、受講生の次へのステップとして、センターで企画運営される女性のための就労支援事業及び関連する事業（例えば、相談事業、市民活動支援事業等）へとつなげていくことができた。

5. 事前評価に対する達成度合いとその根拠

概ね想定どおり達成できた。

ライフプランニングの支援にあたっての数値結果においては、概ね想定通り達成できた。唯一、参加者数が目標値に達していない原因として交流会の参加者数の少なさが考えられる。

この理由は、受講生たちのつながりが、より親密になるように、企画当初の大規模な講演会方式からトーク方式へと変更したことにより参加者が限定され、全体の参加者数に影響しているといえる。

しかしながら、受講生同士のつながりはより強く確かなものになり、将来設計塾で誕生した自主サークル「チーム*アステージ」の今後の活動に広がったことについては、高く評価できる。

6. 今後の課題

実績評価については、これまでには参加者数及び開催回数など（いわゆるアウトプット）に着目しがちであった。今後は、本事業が男女共同参画の政策を推進するために何を生み出したか（いわゆるアウトカム）の視点から成果を考えることが重要となってきている。

そこで、アウトカムの視点から事業に着目すると、①「将来設計塾」参加者による自主グループ「チーム*アステージ」の誕生、②ポータルサイト「ウーマンみらい」の政策、③連絡協議会の継続実施といった3つの成果があげられる。こうした成果を男女共同参画の政策に結びつけていくためには、今後も参画プラネットとして支援を継続し、さらに拡大し充実していくことが求められている。

今後に向けて、さらに「将来設計」「持続可能性」「協力関係」をキーワードにさまざまな立場の人々を巻き込んで事業を展開することができるよう、ネットワーク力と資金力を高めることが重要であると考えている。

○本事業の定着に向けた取組結果

①ポータルサイトの活用

本事業で構築した女性の「将来設計」ポータルサイトのコンテンツ作りに「将来設計塾」受講生が協力する仕組みができた。ポータルサイトを通じて、女性のための「将来設計」プロジェクト連絡協議会メンバーや受講生の双方向で、協力関係を保ち、持続可能な事業として地域に定着させ、他地域の団体とも協力関係を築く有効的な手段となるようポータルサイトの内容を拡充中である。

②男女共同参画を地域に定着

男女共同参画社会の推進をミッションに掲げる当法人が実施することで、地域における男女共同参画社会の定着をめざした。

③専門性を活かした自主事業として展開

林やすこ常任理事が評価士（日本評価学会：認定）の資格を取得したことにより、専門性を持った視点で事業ごとに評価をしつつ、課題解決に向けて事業を継続することができた。

7. 冊子等

文部科学省「女性のライフプランニング支援総合推進事業」委託事業

連続講座「将来設計塾」 3コース／各全6回 無料

あなたのこれからが、見えてくる。

◆第1回～第4回
自分広告で「自分を知る」
将来的の自分をイメージしつつ、いまと3年後の自分の新聞広告を作成。プラス志向の自分表現講座です。
講師：上鶴瀬孝志（コーピーライター、名古屋学芸大学非常勤講師）

◆第5回
護身術で「暮らしを護る」
日々の暮らしのなかに、護身術を取り入れ、自分の心と身体を護ることを学びます。
講師：大沼もと子（Wen-Doインストラクター）

◆第6回
知識で「社会とつながる」
労働法や社会保障などの視点をふまえて、働くための基礎知識を学びます。
講師：渋谷典子（三重大学女性研究者支援室 特任講師）

日 時：3コース／各全6回 ①金曜午後コース／午後1時30分～3時
②金曜夜間コース／午後7時～8時30分
③土曜午後コース／午後1時30分～3時

| 第1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 | 6回 |
|-----------|-----|------|-----|-----|--------|
| ①金/午 8月7日 | 21日 | 9月4日 | 11日 | 25日 | 10月 9日 |
| ②金/夜 8月7日 | 21日 | 9月4日 | 11日 | 25日 | 10月 9日 |
| ③土/午 8月8日 | 22日 | 9月5日 | 12日 | 26日 | 10月10日 |

＊12月5日(土)に交流会開催

対象：女性
受講料：無料
会場：つながれっとNAGOYA セミナールーム
託児：有り 金曜の午後・夜間コースに設定。詳細については、お問合せください。

◆主 催：特定非営利活動法人 参画プラネット
◆主 催：特定非営利活動法人 参画プラネット「将来設計塾」事務局

TEL: 052-249-7277 FAX: 052-249-7278
E-mail: info@sankakudo.net

特定非営利活動法人 参画プラネット 〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目7番26号.801



公共交通機関で徒歩圏内
◆地下鉄鶴舞線 「鶴舞」駅南出口から徒歩約5分
◆バス 「千代田丘丁目」停から徒歩約5分
◆JR中央線 「鶴舞」駅 名古屋駅から徒歩約5分

《連絡先》

特定非営利活動法人参画プラネット
(<http://sankakudo.net/>)

住所：

「本部」 〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目 7-26-801
電話：052-203-5171 FAX:052-203-5171

「指定管理者事業部」

〒460-0012 名古屋市中区千代田五丁目 18-24
名古屋市男女平等参画推進センター つながれっと NAGOYA
電話：052-249-7277 FAX:052-249-7278
E-mail : sankaku@comet.ocn.ne.jp

6. 希望のある子育て期をすごすための

女性のライフプランニング

特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク（京都府）

1. 事業趣旨

当法人は、2000年にNPO法人を立ち上げて以来、一貫して、子育て期の女性に対する身近な相談のできる居場所づくり（商店街、UR都市機構の集合住宅地での親子ひろば）、働く場づくり（ワークシェアのできるこみカフェやチャレンジショップ他）をしてきた。

親子ひろばや宇治市のチャレンジ相談などで、年間200件以上の子育て期の女性たちの相談を受けているが、ハローワークではなく、当方に「働きたい」と訪れる女性たちは、子育てや介護、心や身体の状態が十分でないなどの何らかの働きにくさを抱えている。結婚・妊娠などで離職し、見しらぬ土地に引越し、友達もできないまま出産し、はじめての子育てに戸惑いながら、なんとか社会に戻ろうとしている。そしてやっと見つけた仕事さえも、子どもの病気や親の介護などの理由により早退を繰り返すことでいたたまれずに職場を去ることも幾度かあるという。女性たちは、能力を持ちながら、自ら選択したかのように子どもの帰宅時間に合わせた仕事を選び、子どもの病気等自らはどうすることもできない理由で退職をし、社会に戻るチャレンジをする意欲さえも失っていく。この子育て期の女性の転職を「ワタリ」などと称され、働く気や根気のない女性たちと位置づけられることにジレンマを抱えている。

このような子育て期の女性たち（出産前を含む）に対し、離職しないで働き続けることや、離職してもあせることなく社会に戻っていけるように、子育て期を見通せるような、また、希望のある子育て期をイメージできるようなライフプランニングのプログラムをつくり、親子ひろば、短期大学などの地域に出向いて、多様な生き方や働き方の選択肢やワーク・ライフ・バランスの情報提供などの事業を実施する。

2. 事業内容

（1）連絡協議会の設置

地域密着のプロジェクトとして、連絡協議会を設置し、地域団体や教育機関、行政の複数セクションとの提携を目指し、状況整備への積極的取り組みを目指した。

i 連絡協議会メンバー

<委員>

| 委員名 | 所属 |
|---------|---|
| 桂 容 子 | 宇治市男女共同参画審議会委員 京都学園大学非常勤講師 元豊中市男女共同参画センター館長 |
| 竹之下 典祥 | 京都文教短期大学 特任講師 |
| 太田 亮子 | 日新電機株式会社総務人事部劳政・厚生グループ 主査 |
| 伊藤 弘子 | マイクロテスト株式会社 代表取締役 |
| 足立 阿季子 | 京都府府民生活部男女共同参画課 副課長 |
| 橋爪 博子 | 京都府健康福祉部 子ども未来課長 |
| 萬 守 | 宇治市人権政策室男女共同参画課 参与 |
| 松田 敏幸 | 宇治市健康福祉部 子育て支援室長兼宇治市こども福祉課長 |
| 吉見 弓子 | 財団法人 21世紀職業財団京都事業所課長 |
| 迫きよみ | NPO 法人子育てを楽しむ会 理事長 |
| * 桜井 政成 | 立命館大学政策科学部 准教授 |
| * 加納佐有子 | 立命館大学 桜井ゼミ |
| * 砂場聰美 | 立命館大学 桜井ゼミ |

*印は、個人的協力

<連携団体>

- ・企業 京都経営者協会会长である日新電機株式会社
マイクロテスト株式会社
- ・行政 京都府（男女共同参画課、こども未来課）
宇治市（男女共同参画課、子育て支援室）
- ・大学 京都文教短期大学
- ・民間 21世紀職業財団
- ・N P O 法人 子育てを楽しむ会
- ・個人的な参加（立命館大学政策科学部准教授桜井政成、桜井ゼミ学生2名）

ii 連絡協議会の開催（計4回）

<第1回連絡協議会>2009年6月23日（火）午後7時～午後8時30分

*場 所：宇治市男女共同参画センター
宇治市宇治里尻5-9 ゆめりあ うじ内

*内 容

1. 連絡協議会委員の紹介
2. 女性のライフプランニング支援総合推進事業の概要説明

3. 女性のライフプランニング支援総合推進草案

<第2回連絡協議会>2009年7月30日（木）13時30分～15時30分

*場 所：こみカフェ「ゆめ・はあと」

宇治市宇治宇文字40-2

*内 容

1. 大学生対象事前アンケートの実施および集計結果について
2. 子育て期の女性対象のヒアリングについて
3. プラン検討について
4. ワークショップ開催に向けての具体的な受入先と日程確定

<第3回連絡協議会>2009年9月17日（木）13時30分～15時30分

*場 所：立命館大学「協働ラボ・うじ」

宇治市宇治妙楽1-1 宇治橋ビル3F

*内 容

1. 女性のライフプランニングに向けて
2. 事例研究意見交換

<第4回連絡協議会>2010年1月26日（火）13時30分～15時30分

*場 所：宇治市男女共同参画社会支援センター 4階会議室

宇治市宇治里尻5-9 「ゆめりあ うじ」内

*内 容

1. 事業の検証とまとめ
2. ハンドブック校正

（2）女性のライフプランニング支援の取り組み

子育て中の女性たちの現状の把握のためヒアリングを実施。さらに、学生に対しては現状把握とともに、講座後の意識の変化をみるためにアンケートを実施した。アンケートは、就職・結婚・妊娠・出産・子育てといったライフイベントに関する内容になっている。

子育て期の女性たちからは、子育てだけではなくキャリアのプランによる不安や病気や介護といった課題が出てきた。ライフプランニングの前に課題を前向きに整理することが必要ではないかと思われる。

学生の事前アンケート結果では、子育てによる離職が63%を占め、

性別役割分業意識が若い世代にあっても深く浸透している表れかと思われる。

なお、保育という子育て支援に直結する分野にいる学生たちですら、ライフプランニングという概念をもちあわせていない。かれらは近い将来、仕事上で子育て中の女性たちと常に接する立場になるので、この事業により自らもライフプランニングの必要性に気づき、また、子育て中の女性に共感し、気づきを与え、支援できる人材となることを期待している。

この結果を参考に、学生に対しては、おもに子育て期の女性の労働や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する制度や現状、多様なライフスタイルなどの情報提供後、就職・結婚・妊娠・出産・子育てといったライフイベントに関する制度や企業の取組を講義することにした。

子育て期の女性には、ライフプランを考えるきっかけづくり、気づきを与える楽しいワークショップをすることにした。

① 子育て女性対象のワークショップ（2回）

宇治市の女性問題アドバイザーやN P O関係者が子育てひろばに出向き、人生すごろくゲームをしながらライフプランニングを考えるきっかけとなるような気づきのワークショップを開催した。

② 大学における模擬授業（3回）

京都府文教短期大学の連絡協議会への参画により、幼児教育学科の1回生全員（270名）を対象にワーク・ライフ・バランスの模擬授業を開催した。連絡協議会の委員である企業の代表者や京都府、宇治市の担当職員が講師を務め、企業の取組や行政の制度についての講義を3回実施した。

③ 大学における公開講座等（2回）

立命館政策科学部桜井政成准教授の参画により、立命館大学においてワーク・ライフ・バランス（キャリア支援）の公開講座を開催し、ゼミ生であるワーク・ライフ・バランスを研究している学生たちが司会進行を担当した。その講座に、連絡協議会委員である京都府男女共同参画課と京都経営者協会の代表企業である株式会社日新電機の女性社員（企業内のワーク・ライフ・バランス勉強会代表）が出向き、制度と企業の現状について学生たちに講義した。

④ 子育てママと未来のパパママワークショップ（1回）

学生が「大学生と子育て中の女性たちとの交流プログラム」を企画した。

学生たちがそれぞれのライフプラン（結婚で退職、子育て、住宅購入と続き40歳から先がない）を紹介し、子育てママたちはアドバイス

をしながら進行。商店街のおかみさんも飛び入り参加され、賑やかなワークショップとなった。理想だけではなく日々の現実を見つめたライフプランニングをするという学生の感想があった。(保育付きで実施。)

(3) 連絡協議会メンバー

| 委員名 | 所属 |
|--------|---|
| 桂 容子 | 宇治市男女共同参画審議会委員 京都学園大学非常勤講師 元豊 中市男女共同参画センター館長 |
| 足立 阿季子 | 京都府府民生活部男女共同参画課 副課長 |
| 伊藤 弘子 | マイクロテスト株式会社 代表取締役 |
| 加納 佐有子 | *立命館大学 桜井ゼミ |
| 砂場 聰美 | *立命館大学 桜井ゼミ |

*印は、個人的協力

(4) 連携体制

- ・企業 京都経営者協会会长である日新電機株式会社、マイクロテスト株式会社
- ・行政 京都府（男女共同参画課、こども未来課）
宇治市（男女共同参画課、子育て支援室）
- ・大学 京都文教短期大学
- ・民間 21世紀職業財団
- ・NPO法人 子育てを楽しむ会
- ・個人的な参加 （立命館大学政策科学部准教授、学生2名）

3. 事業成果

(1) 成果・効果及びその普及内容

①連絡協議会について

本事業のような趣旨の協議会は、地元の宇治市、京都府内にもないので、この事業のおかげで、地域にいる在宅子育て女性にとって必要と思える行政、企業、NPOの取組を伝えるきっかけとなった。何よりも、行政（男女共同参画、子育て支援）、企業、就業支援団体、生き方・働き方支援や子育て支援NPOが同じテーブルで熱心に意見を交わし文章を組み立て、積極的に委員が外部へ出向くような動きになったことは、地域の子育て中の女性たちにとってトータルな支援への初めの一歩だと期待をしている。今後ともこの取組を進めていきたい。

- ②ライフプランニングの支援
ワークショップ・講座開催
- (2) ライフプランニングの支援にあたっての数値結果等
- ①事業実施回数・講座数
連絡協議会 4回
講座・ワークショップ 8回
- ②参加者数
講座参加者数 519人
- ③連携対象数
団体 7
(内訳) 企業 2(日新電機株式会社、マイクロテスト株式会社)
行政 2(京都府男女共同参画課・こども未来課、宇治市男女共同参画課・子育て支援室)
大学 1(京都文教短期大学)
民間 1(21世紀職業財団)
NPO法人 1(子育てを楽しむ会)
その他 (立命館大学政策科学部准教授、学生2名)
- ④女性の就業者数、地域活動への参画者数
女性の就業者数 9名
地域活動への参画者数 11名
- ⑤ライフプランニングに関する意識の向上の度合い
京都文教短期大学の女子学生に対して行ったライフイベントに対する意識を問うアンケートについて講座の前後を比較すると、出産後は、「育児に専念」が、講座前は63%であったのに対し、講座後は54%に減少し、一方「フルタイム」「短時間」を合わせて就労を続ける人が14%から22%に上昇している。
また、このような数値であらわされたものではないが、立命館大学での公開講座の感想の中に、「男性だけれども子育てについて考えてみようと思う」というのがあり、子育て期の女性たちに対するワークショップでも、「今まで知らなかつたけれども、ライフプランを考えてみようと思う」などの気づきの感想が寄せられている。

4. 事前評価に対する達成度合いとその根拠

事前の評価の数値目標をクリアし、概ね想定どおり達成できた。

数値目標は達成したけれど、

- ①学生や子育て期の女性に対する必要なライフプランがない。
 - ②若い世代がライフプランに接する機会がない。
- という事前の課題はまだ解決していない。

地域において在宅で子育てをしている女性たちにとって、ワーク・ライフ・バランスにつながるライフプランニングを自身のものとして考える機会は少ない。子育て期の女性たちへのヒアリングにおいても、ワーク・ライフ・バランスへの気づきにつながるような自身のライフプランニングについて考える機会は少なく、あっても「学校を出て、結婚して、子育てをして、家を買って」という漠然としたものであり、その漠然としたものですら、多くは35歳～40歳位でおわっていた。地域では就業準備のためのキャリアプランの講座ですら実施されることは少なく、受ける機会も少ない。就業を目指せば、京都府には、京都市内のマザーズハローワーク、宇治市内のハローワーク内のマザーズコーナーで、保育付きのキャリアプランを考えるような講座を受けられるが、これとて、府内の2か所のみで、多くの地域の女性たちには地理的に通うことのできる範囲ではない。ましてや、現在在宅で子育て中のため就業を目指していない女性たちにとって、考える機会は少なく、受講できる機会も少ない。だから、離職し、子育てに入る前の女性たちに気づきを与える必要があるのではないか。ならば、大学生という母集団にライフプランニングを考えるための制度や企業の取組を紹介する必要があるのではないか。そのときに参画いただいた京都文教短期大学の積極的な協力により大学での講座回数を増やすこととなった。

5. 今後の課題

今回は、講座の大学生の参加者は多かったけれども、1回きりの講座であり、1人ひとりの気づきにつながったかどうかはわからない。大学のカリキュラムのなかにライフプランニングをいれ、授業として継続して取り組む方がよい。

子育て中の女性たちはライフプランニングに出会う機会がない。さらに子育て中の女性たちは組織化されていないので、子育て広場などの通常いるところに出向く方がよい。

子育て広場やパパママ講習会など女性たちが集まるところでライフプランニングに関する気づきのワークショップをするなど、男女共同参画、子育て支援、就労支援を横ぐしにしたような横断的で継続的な取り組みが必要である。今回のワークショップでは、企業の十分な子育て支援策を知らずに離職した女性がいたが、新人研修で、企業のワーク・ライフ・バランスの取り組みを紹介するなど、離職や再就職に備えた研修もしておくのも効果があるかもしれない。

○本事業の定着に向けた取組結果

現在、京都文教短期大学の実務者間で定期的にライフプランニングに関する

る授業について検討中である。

また、子育て広場でも、「まるごとわたし」シリーズで定期的に気づきのワークショップを行っているところである。

《連絡先》

特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク

(<http://www.npohatarakitai.net/>)

住 所：〒611-0021 京都府宇治市宇治妙楽 155 番地の 5

電話/FAX：0774-23-5390

E-mail : hatarakinet@mta.biglobe.ne.jp

7. 仕事・子育て・介護を家族と共に考える

「ライフプランニング手帳」の作成と活用

特定非営利活動法人関西こども文化協会（大阪府）

1. 事業趣旨

女性の初婚年齢は28歳を越え、晩婚化している。晩婚化と同時に、第1子を出生したときの母親の平均年齢は29歳を超えて出産年齢も高齢化している。そのため、高齢出産に伴う不安はもちろんのこと、仕事と家庭・子育ての両立に対する不安、そして子どもが大きくなるにつれ、子どもの教育と両親の介護の両方が同時期に重なってくる可能性も高まってくる。そのため、一時期に経済的負担がかかる可能性もあり、30代から50代までは仕事・子育て・介護のそれぞれを同時に経験しなければならない可能性が高い。また、平成19年内閣府男女共同参画局が実施した「女性のライフプランニング支援に関する調査」によると、子育てしながら働くために必要なこととして、「配偶者パートナーを含む家族の支援」をあげた調査対象者が過半数を占めていた。したがって、20～40代の女性をターゲットに仕事・子育て・介護の両立に向けて社会資源を活用しながら、家族や地域で支え合うことを目的としたライフプランニング手帳を作成した。

2. 事業内容

（1）自治体を中心にヒアリング調査の実施

20～40代の女性がライフプランを考える上で、実際に生じる不安や課題を明らかにすることを目的にヒアリング調査を行った。現代の女性が思い描くライフプランを知ると同時に、そのライフプランの実現に伴う課題や不安を出し合い、その課題や不安の軽減に向けて、どのような情報や環境が必要かを、大阪府内5箇所で各1回のグループワーク形式でヒアリング調査を行った。

| | | |
|--|----------------|-------------------------------|
| 『対象』主に大阪府在住の 20~40 代の女性。(※子育て中の女性も参加しやすいよう、一時保育も実施した。) | | |
| 7月 13 日 (月) | 寝屋川市 | 乳幼児子育て中の女性 8 名 (一時保育つき) |
| 7月 17 日 (金) | 大阪市 (南方面) | 乳幼児子育て中の女性 17 名 (一時保育つき) |
| 8月 21 日 (金) | 関西こども文化協会事務所にて | 独身女性 6 名 |
| 8月 28 日 (金) | 大阪市 (北方面) | 小・中・高校生の子育て中の女性 11 名 (一時保育つき) |
| 9月 7 日 (月) | 大阪市 (北方面) | 乳幼児子育て中の女性 4 名 |
| 3箇所 (7月 13 日、7月 17 日、8月 28 日実施分) を、(財) 21世紀職業財団と協働で実施した。 | | |

『ヒアリング結果』

特に乳幼児の子育て真っ最中の人には次の傾向があることがわかった。

- ・ 時間をゆっくりとって自分のことについて考える時間が必要。
- ・ 目先のことになるとらわれる傾向がある。

(2) 社会資源の調査

ヒアリング調査を基に、ライフイベントごとに生じる課題や不安に対応しうる、情報や社会資源について明らかにした。大阪市からの情報提供と連絡協議会委員による、情報や社会資源についての調査と、ワーキンググループで手帳掲載用情報の検討を行い、協議会により情報や社会資源の精査を行った。

(3) ライフプランニング手帳の作成

ライフイベントに応じた情報の提示と、家族関係や地域の人とのつながりマップ、自分を振り返るワークシートを入れ、ライフプラン手帳を作成した。500 部作成した。また、手帳広報用にチラシを 1000 部作成した。

(4) ライフプランニング手帳活用のプログラム作成

配布先と活用場所・方法を検討するため、ライフプランニング手帳促進モデル地域約 2 箇所を選定し、プログラムを試行した。20 代~40 代の子育て中の女性と仕事をしている未婚・既婚の女性を対象にプログラムを実施した。そしてライフプランニング手帳がネットと連動しやすいよう、インターネット活用も踏まえて、手帳とワーク開発を行った。

- ・2月9日（火）就学前の子どもを持つ女性6名（一時保育つき）
- ・3月11日（金）独身女性、子育て中の女性など20～40代の女性10名

3. 連絡協議会メンバー

| 委員名 | 所 属 |
|-------|---------------------|
| 安藤 二郎 | 読売新聞生活情報部担当 |
| 小崎 恭弘 | 神戸常磐大学准教授 |
| 毛受 矩子 | 特定非営利活動法人スマートらいふネット |
| 笹部 泰弘 | 株式会社ロックオン |
| 山本 麗子 | 特定非営利活動法人ZUTTO |
| 山本 陽子 | 株式会社ケア・ビューティフル |

(50音順)

4. 事業成果

(1) 成果・効果及びその普及内容

事業開始当初の評価では、次の3点を課題として挙げていたので、それぞれの課題に対する評価を行う。

①社会変化のめまぐるしさによるプランニングのしにくさ。

社会変化のめまぐるしさを踏まえ、手帳の構成を変化しにくい主要なライフイベントごとに分けた。そして手帳に掲載している情報を、あくまでも情報の多様性を示すという例示にとどめた。そのため、ライフイベントごとの情報をすべて網羅するという手帳ではないが、例示というスタンスであるために、比較的変化に対応しやすい掲載方法及びコンテンツになっている。

②多様な個人の生活のあり方、地域社会のあり方、家族のあり方があるため、多様なライフプランを踏まえて事業実施をすること。

個人の生活の多様性を最大限尊重するために、手帳形式をリフレッシュできるバインダー形式にし、ライフイベントを選択し、必要なもののみ活用できるスタイルにした。また、多様な個人の生活のあり方、地域社会のあり方、家族のあり方を前提にするため、手帳活用ワークシートの中に、個人の多様性を表現できるシートを作成し、その多様性を確認した上で、手帳が活用できるプログラムとした。

③ライフプランニングのための情報収集ならびに、情報の活用を女性ができるような行動を促すこと。

手帳の活用ワークプログラムで、一人ひとりの人間関係を改めて見つめ、今の時間の使い方、過去の時間の使い方、将来のやりたいことなどを、ワークシートを使い他者に伝えることで、あいまいに考えていたことを少し明瞭にできるようにした。そして、手帳にあるライフイベントを参考にしながら、今、自分に必要な情報は何であるのかを考え、他者に伝え、アドバイスをもらうというワークをプログラムの中に入れることによって、どの情報が今の自分に必要で、どのように活用できるのかを考えることができた。また、手帳の構成そのものが、情報を各自で集めてバインドしていく形式であるため、情報の活用を女性ができるように促進することができると考える。

(2) ライフプランニングの支援にあたっての数値結果等

①事業実施回数・講座数

| | |
|---------------------|----|
| 女性のライフプランニングヒアリング調査 | 5回 |
| ライフプランニング手帳活用プログラム | 2回 |

②参加者数

女性のライフプランニングヒアリング調査 参加者合計 46名（1回あたり平均9名）

ライフプランニング手帳活用プログラム 参加者合計 16名（1回あたり平均8名）

③連携対象数

神戸常盤大学、特定非営利活動法人スマートらいふネット、特定非営利活動法人ZUTTO、株式会社ロックオン、読売新聞

*公式な連携ではないが、協力として：大阪市こども青少年局子育て支援部

④女性の就業者数、地域活動への参画者数

今回の助成事業の中では就業者数や地域活動への参画者数を数値として上げられる活動を行っていない。しかし、地域参画や就労など、社会参画に向けたエンパワメントにつながるきっかけづくりになる手帳を作ることができた。具体的には、参加者からの感想にエンパワメントにつながる側面が見られる。1回目の手帳活用ワークショップでは就学前の子育て中の女性のグループを対象とした。そもそも地域活動へ参画している方ばかりだったが、その方々からの感想に「たくさんの人たちで発表するだけでも人の集まるパワーで実現できそう」「自信を持って書ける生活に近づけたらいいな」というように、手帳活用のワークショップを実施することで、次のステップに向けて実現可能なプランニングに結びつけることができたことがわかる。また、2回目では、学生・社会人・未婚・子育て中など多様な参加者のワークショップを実施したが、

参加者から「ほしい情報、なりたい将来が考えられたことで指針をつくれるようthoughtいました。」「4月から社会人になるので、仕事をしてからの自分が楽しみになった。仕事をする選択をしてよかったです。」という感想をもらった。

⑤ライフプランニングに関する意識の向上の度合い

第1回目の手帳活用ワークでは、ライフプランについて意識したことのない人は6名中2名で、その意識したことのない人が2名ともに、意識が変わったと回答している。また、意識したことのある人も「少し変わった」も含めて4名全員ライフプランニングについての意識が変わったと回答した。また、今後も「継続的にプランニングしたいと思う」については、4名中3名が「とてもしたいと思う」と回答している。1名は、「普通」という回答だった。

第2回目の手帳活用ワークでは、ライフプランについて意識したことのない人はアンケートを回収できた7名中4名で、その意識したことのない人が4名のうち「非常に変わった」が2名、「少し変わった」が2名で、全員程度にかかわらず意識が変化したことがわかる。また、今後も「継続的にプランニングしたいと思う」については7名中7名全員が「とてもしたいと思う」と回答している。

以上のことから、今回取り組んだ女性のライフプランニング支援のための手帳と手帳活用ワークショップは、ライフプランニングに関する意識向上につながっていると言える。

5. 事前評価に対する達成度合いとその根拠

- ・想定どおりに達成できた。

手帳作成とワークショップを実施するにあたり、事前評価の中で課題として挙げられていたことに対応し、現代の女性の多様な生活のありようやライフプランニングに沿った、手帳の作成とワークショッププログラムを作成することができた。また、そこにいたるまでの、ヒアリング調査や協議会、ワーキンググループ会議、手帳活用ワークショップから得られた意見等も、手帳コンテンツとワークショッププログラムを考えるために最大限活かすことができた。

6. 今後の課題

- ①今後の展開について

- ワークショップファシリテーターの養成

- ・ワーク参加者の多様性が予想されるため、幅広い様々な見識が必要。

- 事業の独自化についての検討

- ・ワークと手帳のパッケージ化、2011年度以降の手帳の販売も視野に

入れる。

○インターネットとの連動の提案

- ・シートの閲覧・ダウンロード、「わたしの使い方」モデル的例示、ユーザーの感想・使用例、ワークの映像配信（家にいながらワークを受けることができる）

②今後の課題

○ワークの提供相手によって必要となるプログラム内容が変わるので、課題に応じた新たなワークの提案が必要。

○企業に向けては、プレゼンのやり方次第では興味を持ってもらえるのではないか。（ただし、個人のニーズに答えることは企業の体質ではない）

○限られた冊数の中、どのような展開を目指して普及・啓発していくのか？

○2011年度以降の販売を考える場合、「売れる・卖れない」の判断から内容のすり合わせが必要となる。

- ・一番伝えたい内容で広めていきたいが。

③活用ワーク実施対象者について

○大学との協働

- ・キャリア形成支援を授業科目の中で実施している大学が増えていく。

○女性の就労支援を行っている団体・グループ

○再就職支援や育休復帰支援に取り組む団体やグループなど

○結婚を考えている人たちに向けて（結婚式場など）

- ・手帳がパートナーとのコミュニケーションツールになるのでは？
意外と本人も気づいていないことがある。女性に限らず、現代の女性の生き方はどうなのかを知ることができるので、男性にも参考になる。離婚率が高い現況から、結婚前に双方の話し合いが重要なのではないか。イギリスなどでは、結婚前に離婚の仕方を事前に細かく話し合っている。

○出産を迎える人たちに向けて（産婦人科など）

○看護職の人たち

- ・看護職の人手不足からワークライフバランスの実現が叫ばれている。

○企業（組合）

- ・ワークライフバランスの実現、働き方のクオリティーをあげる。

◎本事業の定着に向けた取組結果

本事業について助成期間内では、手帳の作成とワーク開発までであったため、この期間内の定着については結果を示すことが難しい。しかし、助成期間を過

ぎてからの取り組み予定ということで考えれば、3月中に、大阪府内の女性の就労支援担当課と協働し、手帳の活用ワークショップを実施する予定になっている。手帳と活用ワークショップに対するニーズがあることは、作成途中でも数社から提案をいただいている。そのため助成期間を終了してからの定着に向けて、少しずつ手帳の活用ワーク実施箇所を募集すると同時に増やし、継続的に手帳活用ワークを実施することによって、よりいっそうの定着が期待できる。

7. 冊子等

ライフプランニング手帳



NPO 法人関西こども文化協会では、文部科学省が主催する「女性のライフプランニング支援総合推進事業」の委託を受け、現代社会に生きる20代から40代の女性に向けたライフプランニング手帳「わたしデザインアリー」を発行しました。女性の人生に待ち受けける、仕事・結婚・妊娠・出産・子育て・家族の介護など様々なライフコースの選択の機会を前向きに捉え、女性が輝き、心身ともに健康な人生を歩めるよう、それぞれのライフイベントにあった多様な情報を掲載しています。

■ ソート一覧
○ワークシート
(つながりマップ/リバランスシート/マイヒストリーシート/プランニングシート/振り返りシート)

○ライフイベント情報 (仕事・結婚・妊娠・出産・子育て・教育・介護・健康)

女性だからこそ直面するライフコース選択の機会を前向きに捉え、自分の意志で選択を取り、女性であることで得をしたと思えるまで、迷んだ道を歩いてみる。正しいライフコースはありますかが、あなたの納得のいくライフコースは見つかることです。

現代に生きる女性は「仕事も家族も大事にしたい！」と考えている方が多いことを実感です。いつの時代にも厚き、心身ともに健康な人生を歩むためには、多くの情報源と社会的スキルを養うことが必要です。

(「わたしデザインアリー」エッセイより抜粋)

ワークショップ開催者募集
女性一人ひとりが自分の生き方・働き方を見つめ、多様な選択肢の中から必要な情報を選び取り、私だけのオリジナル手帳「わたしデザインアリー」を作成・活用するワークショップです。
※ワークショップは、手帳が重くなり次第終了します。(限定300回)

□ 対象
・女性社員に継続して働いてもらいたい企業、団体。
・ワーク・ライフ・バランスの実現を支援している企業、団体、グループ。
・仕事と子育ての両立やサークル活動など様々な子育て支援をしている企業、団体、グループ。
・女性の再就職や転職、キャリアアップを支援している団体、グループ。
・社会に出たとき、主体的に物事を選択していく大人になれるようキャリア形成教育などを力を入れて大学・高校などの教育機関。

□ 所要時間: 3時間

□ 講師: NPO法人 関西こども文化協会 哲郎
※会場まで講師をお送りします。

□ 内容: 主催者や参加者の希望に沿ったプログラム内容を提案します。
Ex: 幸運女性・育児・育休中の女性、妊娠婦、学生向け etc
※一日保育対応可(別途要費用)

□ 料金: 応相談

[問い合わせ・申し込み先]
NPO法人 関西こども文化協会 (担当: 中村・松尾)
TEL: 06(6460)1621 FAX: 06(6460)1628
E-mail: office@kansai-kodomo.com

詳しくは、ホームページをご覗ください。
<http://www.kansai-kodomo.com>

ワークショップ
参考までの声
・他の人たちと一緒にすると面白かった。発表することで、自分のライフプランが実現できそう。(40代女性 自営業)
・周りの人に恵まれていたことに気づけた。今まで幸せに過ごせてきたんだと再確認。(30代女性 主婦)

《連絡先》

特定非営利活動法人関西こども文化協会

(<http://www.kansaikodomo.com/>)

住所：〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-29-20 大阪 NPO プラザ 207

電話：06-6460-1621 FAX：06-6460-1628

E-mail：office@kansaikodomo.com